

平成30年度第2回北海道子どもの未来づくり審議会 子ども部会議事録

【日時】平成30年12月27日（木）10:00～15:00
【場所】北海道庁 赤れんが庁舎2階2号会議室

オリエンテーション

- ・事務局より、日程・注意事項などの説明

開 会

- ・司会～子ども未来推進局 丸山主幹



部会長の挨拶

【野村部会長】

皆さんおはようございます。お久しぶりでございます。8月の第1回の開催に引き続き、今日第2回目ということで、これまでのグループでの議論をまとめ、仕上げの作業をしていただくこととなります。前回、8月にお集まりいただいて、議論の中で色んな課題が見えてきているのではないかと思います。前回グループで出し合った課題などについて、それぞれ皆さまの住んでいるまちの状況等、各自で調べてきていただいていると思います。この会議で、調べてきていただいた内容を持ち寄り、再度、グループで良いところを探して見つけていく、褒めていくというような和やかな話し合い、議論をして、一つの形にまとめていってほしいと思っています。

一つお願いとして、強調したい部分が、それぞれ調べてこられて、グループごとにまとめをしていただくのですが、北海道のそれぞれの地域に皆さまお住みになっていると思うのですが、それぞれの地域の中で、何ができるのかというところを重点に、そこに特化するような形で話し合いをしていただければと思います。それぞれのグループに特色がございますので、どのような形でまとまっていくのか、どのような仕上がりになるのか、私自身も楽しみにしております。

なお、今回も前回と同様に3つのグループごとに、道庁の職員さんが進行役として付いておりますので、助けも借りながら活発な議論、グループ討議をしていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

グループ討議

【野村部会長】

それでは、引き続き、議事に入りたいと思いますが、8月に行った第1回目の中間報告の結果等を今回の資料に添付しております。「第2回子ども部会の基本的な進め方」の資料、お手元にあるかと思います。それらを踏まえまして、各グループでの話し合いを始めてください。久々なので、照れもあるかと思うのですが、限られた時間の部分でありますので、恥ずかしがらずに活発に意見交換をしていただければと思います。それでは、各グループの進行役の皆さんどうぞよろしくお願いいたします。

(3グループに分かれてグループ討議)

【Aグループ】



【Bグループ】



【Cグループ】



結果発表

【野村部会長】

それでは、皆さんまとめて少し苦戦して、でもしっかり3つのグループともに発表の準備が出来ました。大変お疲れさまでした。それでは各グループから、これまでの検討結果を発表してもらいます。順番通り、Aグループからお願いできますでしょうか。よろしいですか、Aグループの方、お願い致します。

【Aグループの発表】

では、Aグループからの発表を始めます。まず、私達Aグループが考えたのは、子どもが少ないイコール結婚している人が少ないというテーマです。どうして結婚しないかを私達が色々考えた結果、前は経済面と結婚観、仕事面の3つを考えました。その中から今回は、経済面と結婚観を取り上げました。その理由には3つのことがあって、一つ目は出会いがない、二つ目は地域（考え方）の変化、三つ目は教育費と医療費

がかかるという点を見つけることが出来ました。

出会いがないということについての解決策は、行事を行うということです。具体的には、特産物を使った伝統行事、有名人を呼ぶことです。行事を行うが、結婚を意識し過ぎず、来やすく、若者から高齢者まで様々な年齢の人が交流できることで、結婚につながる出会いが結構あると思うので、行事をもっと積極的に行うと良いと思いました。

次に、②の地域（考え方）の変化についての解決策は、結婚談について学校を通じて集めてアンケートを取り、それを元に冊子やサイトで紹介します。

③の教育費・医療費がかかるについての解決策は、地域の交流を増やす、例えば、おさがりなどで負担を減らすと良いと思います。

①、②、③のすべてに言えることとして、PRの仕方を考えました。人が集まる場所で、漫画風やカラフルにした見やすいチラシを配布する、学校と協力し、子どもが作ったチラシを公共施設に置く、ポケットティッシュや回覧板を使う、行政のホームページが見づらいものがあると興味がなくなるので見やすくリニューアルする。これらのことを解決すれば、経済面、結婚観、仕事面を充実させたまちになると思うので、少子化の役に立つと思いました。これで、Aグループの発表を終わります。



【野村部会長】

どうもありがとうございました。あとから全体で質疑も取りますので、よろしくお願ひします。続いて、Bグループの発表をお願いいたします。

【Bグループの発表】

これからBグループの発表を始めます。Bグループは、都市部、地方、共通の3つをメインに話していきたいと思ひます。まず、課題面では、都市部の課題として、保育所不足、保育士不足、医療費の助成が少ないことがあります。地方は人口が少ないので、子育て世帯への助成金、高校生までの医療費や給食費の無償化などがありますが、その一方で、JRの路線が廃止になり、交通の便が悪いなど、生活面で大変なこともあります。また、病院がないと子どもが産めないで、病院を作る必要もあります。

遊ぶ場所である公園が不足しているという点では、子どもと触れ合う場面が少なくなっているところで、共通して言えることは、近所、地域同士の助け合いが不足していることです。

この課題についての解決策は、まず都市部では託児所を作ること、授業を創設して子どものことを勉強する機会を作ること、そして企業内に保育施設を作ることです。

共通の解決策では、お祭りなどを行って交流を深めること。地方では、ふるさと納税を活用するなどして、返礼品や企業を集めたり、企業を誘致したり、大学を作ったりなどをしていけたらと思ひます。

この3つに共通してできる手段は、まず、お金がないと全部出来ないことなので、お金を集める。これは行政の仕事と思つたので、あまり深くは触れていないのですが、私たちが今できることは、情報発信と思ひました。Aグループの方も言っていました、行政のホームページは堅苦しかったり見づらかったりするので、リニューアルしたり、面白くしたりして、まちの情報をYouTubeやTwitterなど若い人が見る媒体を使ったり、YouTubeに関して言えば、有名なYouTuberさんにコラボしてもらったり、首長や行政の子育て担当者がTwitterを使って、今こういうことをやっていますと身近に感じられるようにすることが大事だと思ひました。また、YouTubeやTwitterは、それに関わる人や興味がある人に伝えるものなので、それ以外に誰にでも見てもらえるものとして、駅や空港にポスターなどを張り、情報発信できるものを設置することによって、全てに関して解決していけるのではないかと考えました。以上です。



【野村部会長】

はい、ありがとうございました。Bグループもまとまったお話でした。分かりやすかったです。ありがとうございます。それでは、最後にCグループお願いをいたします。

【Cグループの発表】

気をつけ、礼。これからCグループの発表を始めます。

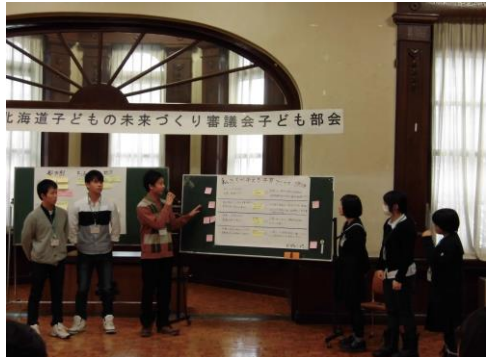
私たちが考える子育てしやすい環境です。私たちはまず、このなぜ子どもが増えないのかなど色々な問題を考えた結果、どのような環境であれば、随分楽になるのか、子どもが産みやすく育てやすくなるのかということを話し合いました。

まず出てきたのが、LINEで育児相談です。相談窓口などは市役所などにも結構あり、インターネットでも相談できますが、人に見られたくない、相談しに行くのを見られたくない、知り合いにはあまり話したくないという声があったので、LINEで育児相談というシステムが良いのではないかと思います。忙しい人でも大丈夫、LINEでさっと顔も見ないで気軽に相談できます。具体的には、相談したい相手の条件を入力・設定すると、育児経験のある人の中から選ばれ、その人に相談ができるシステムを作り上げると良いと思いました。

次に、子育てしやすい環境を作るにあたって、仕事をしながらという意見が、僕たちの話し合いでよく出たので、まず、仕事をしやすい企業を作るために、育休など子育てしやすい企業のランキングを作って表彰することを考えました。これはランキングを作って、企業の子育てしやすさが上位に来れば、若い人達もその企業に行きやすいということと、企業同士が切磋琢磨し合うことで、子育てしやすい企業が増えるのではないかと思います。この案が出てきました。これに関しては、市や道が調査をして、育児がしやすいかどうかのランキングを作って、1年に1回表彰するというもので、聞いたところによると、今も表彰はあるらしいのですが、僕たちはそれを全然知らないのもっと表彰して、この企業が良いですということをPR活動することも含めて、今回考えてみました。

次に、子育ての現状を若い人たちに伝えることが大切だと思いました。それによって、将来のことを考えられたり、若い人たちが将来自分で子育てする上での意識を変えられたりするからです。具体的なものが、企業で講師を招待し、セミナーを開くことが良いと思いました。

最後に、高齢者の方に子育てに協力してもらうことで、両親の負担を減らすことができ、なおかつ高齢者の方にも役割が生まれます。現在も、保育士が少ないため、高齢者のボランティア活動はあるのですが、規模が小さいので、その規模をもう少し拡大していけば良いのではないかと思います。また、資格がなくても仕事として働けるとのことなので、退職した後などの時間に、協力してもらうことが良いのではないのでしょうか。自分達はそう考えました。これで発表を終わります。礼。ありがとうございました。



【野村部会長】

Cグループ、礼儀正しいですね。素晴らしいと思います。はい、今、3つのグループからそれぞれ発表をいただきました。どうもありがとうございました。

全体討議

【野村部会長】

今、この3つのグループから出された御意見、御提案をこの子ども部会として整理をしていきたいと思えます。ここから全体討議にさせていただきたいと思えますが、A、B、Cそれぞれ似ているところもあれば、視点が違うところもあったと思えます。そういった部分も含めて、他のグループの発表の御質問を受け付

けたいと思います。

まず、Aグループの発表について、御質問ある方いらっしゃいますか。Aグループは、「どうして結婚しないか」というかなり難しい哲学的なところから入って、色々と策を作っていただきました。この中で何かあれば質問していただきたいのですが、どうですか。はい。元岡君。

【Cグループ：元岡委員】

質問じゃなくて良いと思ったところでいいですか。行政のホームページを見やすくリニューアルすることが、私もたまにホームページを見ますが、見にくいことがあって、そこに視点を当てたのはとても良いことだと思いました。

【野村部会長】

はい、ありがとうございます。ほか、どうですか。少し疑問に思ったとか、分からないところがあれば。

それでは、次、Bグループの発表について、何か御質問、先程のような意見、感想も含めて出していただいてよろしいかと思うのですが、いかがでしょうか。

都市部、地方、共通と横軸に3つの違う場面を想定して、課題、解決策、手段という形でまとめていただきました。はい、元岡君、お願いします。

【Cグループ：元岡委員】

授業の創設というのは具体的にどのようなことを授業とするのですか。

【Bグループ：石川委員】

すでに行われている学校もあるのですが、高校生と中学生が保育園などに行って、子どもと関わることによって、高校生で子ども嫌いとか、子ども苦手という人もいると思うのですが、そういう人が出来るだけいなくなるような活動を必然的に高校生がやることによって、子どもを持った方がいいかなど、将来思えるようなきっかけになるための授業を家庭科などで授業を創設できたらいいのではないかという案です。よろしいでしょうか。

【Cグループ：元岡委員】

ありがとうございます。

【野村部会長】

Aグループへの御質問、感想でも構いません。よろしいでしょうか。

それでは、Cグループの発表についての御質問、感想等、ある方いらっしゃいますか。はい、どうぞ。

【Bグループ：石川委員】

育休や産休を取りやすい会社を増やすと二つ目にあると思うんですが、企業にとって何かメリットがあると企業も取り組みやすいと思うんですけども、企業に対するメリットは、何か考えていますか。

【Cグループ：元岡委員】

話し合いの中では、ランキングを作ってホームページにアップしても興味のない人は見ないので、検索すると1番上にくるようにどうにかならないかという話になったのですが、ホームページに育児環境が整っている企業をランキングすることによって、それを見た若い世代の人達はその企業に就職したり、ランキングをつけて表彰したときに、その企業がこんなことをしていますという紹介もあわせてすることによって、その企業と若い世代の人たちが、お互いWin-Winな関係になり、知名度や認知度が上がって企業としてもいいことが多いと思ったので、認知度が上がるというメリットがあると思います。

【Bグループ：石川委員】

はい、ありがとうございます。一つ意見として言わせてほしいのですが、会社にとって認知度はとても大事だと思うのですが、すでに大企業になっている会社には、そのメリットがあんまりないのではないかと。だからこそ、企業の中で、そのランキングの中で表彰をされるだけじゃなくて、何か特典が付くようにすると、企業も前向きに取り組もうと検討できるのではないかと個人的に勝手に思いました。以上です。

【野村部会長】

はい、ありがとうございます。色々な質問、意見も含めて出していただいたのですが、この場でまた受け付けたいと思うのですが、いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、私から少し質問させていただいても良いでしょうか。まず、Aグループの解決策②「結婚観（結婚談）を学校を通じて集め、冊子やサイトで紹介する。」とありますが、具体的にはどのような方法で、どのようなものを作るのでしょうか。

【Aグループ：中村委員】

学校の先生や保護者の方にアンケートを配って、結婚してこんなことがあった、こんな楽しいことがあった、そういったものを集めて冊子などにして、結婚したらこんなことがあるということを知ってもらって、いいなと思ってもらえるというものです。

【野村部会長】

これは、学校を通じて、学校に通っている皆さんのような児童生徒さんに対してのものということで、いいでしょうか。

【Aグループ：中村委員】

はい。

【野村部会長】

よろしいですか、はい、どうもありがとうございます。それでは、次にBグループに質問したいと思いません。都市部、地方、それから共通とありますが、共通の課題のところに、近所、地域、お隣同士の助け合いが不足と書いています。これはどのような場面で不足していると感じられましたか。明日からの私の仕事にも直結するので、お聞きをしたいのですけれども。

【Bグループ：北嶋委員】

話し合いの時に出たのは、近所の人の名前や顔が一致していないということがあって、地域との交流があると、災害の時などにも助け合いが出来るのではないかとということです。

【野村部会長】

はい、ありがとうございます。明日から私も頑張ります。それでは、最後、Cグループに対する質問ですが、けれども、「子育ての現状を若い人達に伝える」とあります。企業で働く新入社員なのか、もう少し若い皆さんのような児童生徒のところまで下げるのか、具体的にどのようなセミナーを考えましたか。

【Cグループ：元岡委員】

若い人は、日本の男性の家事をする時間が調査結果では15分で、スウェーデンでは2時間ほどあります。それが足りていないのではないかとということで、家庭科など学校の義務教育の時間や、成人式の前の時間などを使って、男性の家事をする時間が足りていない、女性が家事をするべきだといった固定概念を変えるための授業をしようと思いましたが、それでは興味が湧かないという意見がありましたので、ちょうど育児に興味を持ち始める世代の、成人してからのいわゆる新入社員の方々のことを指しています。そのセミナーの内容は、具体的なものを考えていませんでしたけれども、例えば、日本と海外の差などを教えていくものを考えておりました。

【野村部会長】

他のグループの方もいいですか。元岡君の回答でいいですか。はい、どうもありがとうございます。

それでは全体討議のまとめをしたいと思うのですが、3つのグループ、それぞれにまとめをしていただいて、大変分かりやすい発表でした。どうもありがとうございます。一つ一つのグループの特徴、提言にまとめる際に要素となる部分を、今日、私が皆さんの発表や討議しているところを見させていただきながら、感じたことを最後にお伝えしたいと思います。

まず、Aグループですが、子どもが少ない、結婚している人が少ない、なぜ結婚しないか、結婚観、それから経済面と1番難しいところをチャレンジしてテーマ設定し、討議いただいて、本当御苦労あったかと思います。どうもお疲れさまでした。

具体的な部分では、出会いがない、地域やそれぞれ個人の考え方が変化している、教育費、医療費がかかるという解決策として3つほど提案がありました。結婚を意識しすぎず、来やすくするような行事を行うと、なかなか良いポイントをついておりまして、簡単に言うと、わざとらしさをなくするということですね。言葉では言いやすいのですが、実際に行うとなると、結構、難しい作業・業務になります。特産品を使ったものや伝統行事に絡めて人を集める、芸能人を呼ぶというのも手っ取り早い方法かなと思います。道内各地で色々なこういった行事が行われております。目新しいものというのは、もうかなり出尽くした感があります。ただ、地方でも都市部でも同じですが、学校を卒業して、働きに出て、自分のふるさとを出て働いている人が、生まれ育ったふるさとはこういう懐かしい行事があるということで、もしかしたらUターンにつながるかと期待はするのですが、そういった工夫も重要だと思います。

②の結婚観です。これは非常に難しい問題で、何か行事をすれば、すぐに結婚観が変わるというものではありません。ですから、こういった冊子、それからサイトで紹介をするという活動は、地味ですが、どこの地域でも必要だと思います。すぐ結果が出ないので、来年やめてしまおうというような話になりがちですが、粘り強く取り組んでいく必要があると思います。

教育費、医療費についてはお金の話なので、この額を上げる・下げるとするのは、この部会の討議としてはふさわしくないと思います。お下がりなどで負担を減らす、これはなかなかエコな感じでよろしいかなと思います。

全てに共通する部分で、PRというキーワードで出ております。Bグループ、CグループもこのPR、情報発信がやはり重要なキーだと思います。PRをする上で、色々なアイデアを出していただいております。漫画風や、きれいなチラシを配布する、ポケットティッシュを使う、回覧板を使うなど、なかなか古くて新しい発想かと思います。

先程の質問、意見にもありましたとおり、行政のホームページを見やすくリニューアルする、これはやはり大きいと思います。私も時々、道内外の市町村のホームページを見ますが、まちによって全然違います。見やすいところと、ただ作っただけというようなところもなかにはあります。提案としては、小さなことかもしれませんが、これは十分大きな反響というか、後々良い影響が出てくる取り組みかと思います。

経済面、結婚観、仕事面を充実させた町というかたちで締めくくっていただいております。本当に難しいテーマで、議論まとめていただいて、どうもありがとうございました。

続いて、Bグループです。都市部、地方、共通という視点で、Bグループのメンバーがそれぞれのまちから来てもらっていますので、JRがなくなるけれど、どうしようと悩んでいるところと、地下鉄が走っているところもあるということで、分けて考えるという視点も重要だと思います。札幌で行う施策が地方ではヒットしない、マッチしない、そういうやり方は今時ではないということ、課題を保育所・保育士不足、医療費助成金、JRがなくなる、子供が産める病院がない、遊び場所の公園が地方で不足しているということが、結構重要かと思います。かえって札幌の方が公園がいっぱいあったり、そういったことが意見の部分から垣間見えるところであったと思います。

解決策では、子どものことを勉強する機会、これは皆さん方の年代で、このような提案をするということに少し驚きました。私、40年以上前、皆さんと同じくらいの年では、このようなすばらしいことは思い付かなかったと思います。先程のAグループの結婚観（結婚談）を学校を通じて集め、冊子やサイトで紹介する

と共通したところがあると思います。皆さん若い方々から、こういう部分の意識を変えていこうという狙いで、大変すばらしいと思っております。

地方では、企業を呼ぶ、大学を作る、壮大なプランではありますけれども、これは、なかなか簡単にできることではないので、この部会で掘り下げることができませんが、共通した解決策として、祭りで交流し、お金や情報発信をしていく、YouTube、Twitter、有名 YouTuber にこの宣伝する部分を作ってもらおうということが挙げられました。駅や空港、人が集まるところでそういった発信をすると、地道な取り組みですけれども、続けないと成果を上げられません。打ち上げ花火みたいに、短時間で成果が出ないと思います。ここでもやはり情報発信がキーになっていると思いました。

最後、Cグループです。シンプルで見やすい模造紙の作り方で、それもすばらしいと思います。LINE で育児相談をできるようにする、ここもやはり双方向の情報発信ということがキーになっていると思います。忙しい人でも気楽に相談ができる、相談したい相手の条件を設定すると、育児経験のある人から選ばれて相談ができる。今、実は私の娘が里帰り出産で帰ってきていて、生まれたての赤ん坊が30年ぶりくらいに自宅にいます。具合悪くなるくらい夜中は泣きまくっている。困っているのですけれども、やはり1人で育児をする部分では、私たちの年代でもそうでしたけれども、どうしていいかわからない、ギャンギャン子どもが横で泣いている、お腹が減っているのか、大きいのが出ないのか、病気なのか分からない。そういう相談をいつでも誰でも気軽に受け付けられるという部分は、大きなサポートになろうかと思えます。

そして、育休の企業のランキングとありました。まだ皆さん中高校生で、大学の3年から4年の就職するときに、そこの企業が育休や産休が自由に取れたり、子どもを産んでから時間短縮で早く帰ったり、遅く出勤したりできるという企業がとても人気があります。先程、会社にとってうまみがないと難しいのではないかという意見がありました。それもあるかもしれません。ただ今は、条件の良い会社に就職したい方が多いです。皆さんあと5、6年経つと、ここに2年、3年の方もいらっしゃるかもしれませんが、こういうランキングをして表彰された会社はイコール優良企業で、総合的な社員のための制度が充実している会社だと思えますので、表彰で、そういうものを外に向けて発信されるというのは、会社にとっては、かなりのメリットになろうかと思えます。ただでさえ、今、人手不足で、日本人だけでは足りないという時代ですから、なかなかメリットが大きいかと思えます。

さきほどPRのところでもありましたが、将来のことを考えられる、子育ての現状を若い人たちに伝えるという部分でも、やはり皆さん方の意識を変えていかないといけないのではないかという思いから、出てきた課題、対策、具体の対応かと思えます。

高齢者の方に協力してもらおう。これは、北海道の中でも、せわずき・せわやき隊などボランティアグループ的な高齢者の方たちが実はいらっしやいます。そういった部分を広めて、高齢者の方にも役割が生まれるというところで、人生100年時代で定年が延長されてきておりますが、総じて長生きする方が多くなってきている一方で、地域の孤立という部分も社会問題になっておりますので、こういう子育てに関するサポート隊の組織は、全道、全国にもありますけれども、全道的に広く推進すると良い手立ての一つになると思っています。

A B Cそれぞれの発表のところで、私の感想を述べさせていただきましたけれども、この3つのグループのいいところ取りをさせていただきながら、提案書を今後作ってまいりたいと思っております。

皆様方に話し合っていて、まとめていただいたこの貴重な成果品をどうするかという今後のスケジュールのところでもありますけれども、年明け2月に開催予定の北海道子どもの未来づくり審議会に私が報告をさせていただきます。その審議会で、提言書という形で取りまとめをして、知事に提出をすることになっております。審議会の報告については私が行うこととして、知事への提言につきましては、私と副部会長の釧路の元岡大和君と一緒に皆さんの代表として、知事に提言書をお渡ししたいと思います。

皆さんには、8月の夏から真冬の今日まで2回にわたりまして、長時間討議いただきました。部会長として、改めてお礼を申し上げたいと思います。大変ご苦勞様でございました。ありがとうございました。

以上で、本日の全体協議、議事をすべて終了させていただきたいと思えます。それでは、最後、マイクを事務局にお返しします。よろしく申し上げます。

閉会挨拶・閉会

【北海道子ども未来推進局 花岡局長】

皆さん本当に長時間お疲れ様でした。今年の子ども部会は、「私たちが考える北海道の未来」というテーマで話し合いをしてもらいました。

今、まとめの報告を聞きましたけれども、LINEで育児相談をするですとか、地域の中でお下がりをするですとか、行政のホームページを見やすくするですとか、10代の若い世代の柔軟な発想が盛り込まれた提案だったと聞いております。今、お話があったように、このご意見は、代表の方から高橋知事に御報告していただくこととしておりますので、よろしくお願いいたします。

皆さん御承知のとおり、北海道は、他の都府県に比べて面積が非常に広いという中で、179市町村におよそ540万人の方々が生活しております。

北海道はどこに住んでいても、家族が安心して子育てができるよう、皆さんからいただいたアイデアを私ども道庁はじめ、北海道全体で生かしていきたいと考えております。皆さん、このお集まりに参加したことで、これまで以上に少子化や子育てに関して考える機会になったことと思います。これからもぜひこうしたことに関心を持って御活躍をしてもらいたいと思います。今日は本当に長時間ありがとうございました。お疲れ様でした。

